

あけまして おめでとうございます

1992年創立のさくら薬局は、現在地への移転(1999年)から10年を迎えました。この間、薬袋プリンタや錠剤自動分包機、電子薬歴(薬局の電子カルテ)などの機械化をはじめ、インターネットによる情報収集などもすすめてきましたが、最終的にはカウンター越しの患者さんとの会話によって、薬局は成り立っています。

また、在宅医療の分野でも積極的に訪問服薬指導にとりくんできたところですが、ますますその真価が問われる時代となってきました。医薬品の取り扱いだけでなく、介護用品・福祉用具・サプリメントなど、患者さんの要望に沿った業務の拡大も図っていきたいと考えています。かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師として、お気軽にご利用いただけるようなさくら薬局をめざして、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さくら薬局スタッフ一同



さくら薬局職員一同

薬剤師募集中! 新卒・既卒を問いません。

正職・パート・アルバイトなど相談に応じます。詳しくは、さくら薬局へおたずねください。

さくら薬局の出田聖子は、昨年の11月に結婚して石井聖子になり、ひまわり薬局勤務になりました。これからもよろしくお願ひします。

■発行所/さくら薬局

〒867-0045 水俣市桜井町2-2-19

TEL0966(63)7100 FAX0966(63)3960

通話料無料フリーダイヤル 0120-63-9383

■発行責任者/甲斐 康幸

さくら薬局だより

新春号

2009.No.41



子ども達の未来のために

昨年、私は同居していた91歳の母を見送りました。後期高齢者医療制度が始まる直前でした。母は戦争を潜り抜け、食料もない時代に子ども達を育て、老後は北九州から移り住んで私の家族を支えてくれました。私たち家族は良くなる病気が知ったときに、告知をすべきかどうか、残りの人生をどのようにしてあげれば良いのか、話し合いました。そして、命の重さ、母の存在の大きさ、いなくなることの寂しさを実感しました。それから、生まれ変わりであるかのように、5ヵ月後に長女に娘が産まれました。東京に居るため、無事に産まれるまで心配でしたが、今は携帯電話のメールで写真を送ってくれるのが、楽しみです。赤ちゃんの笑顔は本当にうれしそうで、眺めていて飽きませんね。この子の成長を願わずにはいられません。

そして、この時に思うのは、イラクの子ども達のことです。1つの病院でも年間5000人以上の子ども達が死亡しているそうです。劣化ウラン弾による奇形児、白血病やクラスター爆弾の不発弾の爆発による事故や、無差別攻撃の犠牲です。

戦争は憎しみが憎しみを生み、解決はしません。誰でも平和に生きる権利を持っているのではないでしょうか。アメリカの戦争に手を貸すことは許されません。日本の5兆円にもなる軍事費を減らして、福祉に回せば毎年2200億円を削る必要は無いし、また財源が無いからと、消費税を上げる必要も無いのではないでしょうか? 子ども達の未来のために、大人の責任を果たして行きたいと思います。

代表取締役 重松 公子